資料８－１

北海道・東北地区における献血推進活動

・平成27年度に取り組んだ献血推進事業

・平成28年度に取組予定の献血推進事業

【平成27年度に取り組んだ献血推進事業】
（北海道）YOSAKOIソーラン祭り献血推進

【目　的】「YOSAKOIソーラン祭り」は、現在「さっぽろ雪まつり」に並び、北海道を代表するイベントとなり、3万人の参加者と200万人の観客を誇っています。本イベントの広報に献血の情報も加えることにより、北海道全域に献血の必要性を訴え、参加チームへ血液の不足する冬期間の献血連絡網を構築する。

【内　容】
①FM北海道での献血告知スポット50本、60秒パブ2本放送
②会場内MCによる参加者・来場者への献血勧誘アナウンス実施
③YOSAKOI公式ガイドブックに「献血」広告掲載
④出場チームすべてに献血勧誘の周知
⑤出場チームすべてに血液不足時の緊急要請依頼の実施

【実施日】広報期間：平成27年5月26日（月）～6月8日（日）　北海道ＦＭラジオエリア

【対象者】（株）エフエム北海道リスナー、祭り来場者及び参加者

【手　順】祭り組織委員より協力依頼を受け、センター内で検討。

けんけつちゃん
YOSAKOIバージョン

【平成27年度に取り組んだ献血推進事業】
（北海道）YOSAKOIソーラン祭り献血推進

【予算額】　特別協力金　300,000円

〇FM北海道での献血告知スポット50本、60秒パブ2本放送
〇会場内MCによる参加者・来場者への献血勧誘アナウンス実施
〇YOSAKOI公式ガイドブックに「献血」広告掲載

【来場者】参加者数27,000人、観客動員数は187万5,000人

【効　果】本イベントは全道各地より参加者・観客が参集するため、当日の献血者確保は少ないが、道民に対する広報効果に期待できた。

【対応方針】献血計画の見直し、イベント会場での視覚的な広報
広報実施（ポスター・看板等）費用対効果の検証

チラシ

【平成27年度に取り組んだ献血推進事業】
（北海道）YOSAKOIソーラン祭り献血推進

【実施日】　広報期間：平成27年5月26日（月）～6月8日（日）　北海道内ＦＭ放送エリア

【対象者】エフエム北海道リスナー、祭り来場者及び参加者

【実施手順】3月18日に祭り組織委員より協力依頼を受け、センター内で検討。
移動採血車の配車は中止する。

【実施に際して苦労したこと】
よさこい参加チームへ組織的な献血協力の依頼と血液不足時の協力体制の構築を図ること。

【平成27年度に取り組んだ献血推進事業】
（北海道）冬の献血キャンペーン

【目　的】冬期間献血者確保対策として、Ｊ2サッカーチーム「北海道コンサドーレ札幌」と連携した広報展開を実施する。
平成27年度における全血献血者への処遇品は、コンサドーレとのコラボ企画を実施中のため、選手の肖像を用いたポスター・チラシ・ＴＶＣＭ・ＷＥＢＣＭを製作し相乗効果を期待する。
また、400mL献血・成分献血の協力を強く呼びかけ400mL献血率および高単位血小板の向上を目指す。

【内　容】①コンサドーレファンフェスティバルでの献血実施

タイトル：北海道コンサドーレ札幌キックオフ2016
日　　程：2016年1月16日（土）
時　　間：開場11：00　献血受付12：00～17：00
場　　所：札幌ドーム
主　　催：㈱北海道コンサドーレ札幌
実　　績　・献血協力者へコンサ＆献血ファイル
　　・先着20組の献血者に選手と記念写真

＜献血実績表＞

受付	200mL献血	400mL献血	400mL率	換算数
64人	1 人	58 人	98.3%	117 u

【平成27年度に取り組んだ献血推進事業】
（北海道）冬の献血キャンペーン

【内　容】

②選手自ら献血および取材対応

〇選手２人が大通献血ルームを訪れ、400mL献血に協力
〇受付～献血の流れに沿ってテレビ局と新聞社の取材
〇道民の皆様あてに協力を求めるメッセージを収録

③ＵＨＢ（北海道文化放送）でのＣＭ放映

期間とエリア：1月中旬～2月上旬・北海道全域
出稿本数：約90本

④製作物

〇キャンペーン告知ポスター・・・・1,400枚
　配布先：各市町村・学校・大型スーパー
〇キャンペーンチラシ　　・・・・30,000枚
　ファンフェスタ当日、来場者4,500名に配布し年度内に固定施設で400mL献血・成分献血いただいた方に特製クリアファイルをプレゼント。
〇献血実施告知ポスター　　・・・・2,000枚
　対象：札幌市・室蘭市・旭川市・北見市・釧路市
　　帯広市・函館市

【平成27年度に取り組んだ献血推進事業】
（北海道）冬の献血キャンペーン

【実施期間】平成28年1月16日（土）～3月31日（木）・道内全域、札幌ドーム

【対 象 者】北海道民

【実施手順】「採血効率向上に関する検討委員会」において冬期間の献血者確保対策を検討し、キャンペーンの骨子を構築する。企画内容については、コンサドーレ札幌指定の広告代理店に伝達し協議して取り進める。

【実施に際して苦労したこと】

・ファンフェスティバルへの参加については、スケジュールが直前まで決まらず献血実施時間の設定に時間を要した。

・札幌ドーム内に移動採血車を配車することが始めてであったため、献血車の導線確保および献血周知方法と受付の流れに苦労した。

【来場者】　ファンフェスティバル「キックオフ2016」 ： 4,300人

【平成27年度に取り組んだ献血推進事業】
（北海道）冬の献血キャンペーン

【効　果】
・献血者の確保が厳しい冬期間に集中してＣＭを放送することにより、若年層を中心とした幅広い世代への効果的な広報ができた。
・400mL献血の実績数をみると、前年度と比較して20代の献血者数の増加を含め、男性の献血者数が増加した。
・献血ルームの実績が前年度と比較して大幅に増えており固定施設の認知度向上に繋がった。
・ＷＥＢ広告（10代～30代限定）の掲出により、ホームページのアクセス数が大幅に増加したことから、若年層への広報に関して効果があった。

【改善点】
・献血ルームへの誘導には繋がったが、移動採血車の実績が減少したことから運行スケジュールの周知を強化するなどの取り組みが必要である。
・キャンペーンの取材は２社に止まったため、メディアが興味を示す企画となるよう内容を充実させる必要がある。
・長期キャンペーンのため、全国キャンペーン等と重なり広報の効果測定が得られにくい。

【対応方針】平成26年度日本ハムファイターズ、平成27年度北海道コンサドーレ札幌と肖像権の使用については、本来、スポンサー契約が必要となり高額となるため、費用対効果の検証、そして球団側が社会貢献事業として取り組む方向性となるよう交渉を進めていきたい。

【平成28年度に取組予定の献血推進事業】
ティーンズドナー献血推進キャンペーン

【 目 的 】少子高齢化の進展により、今後一層の血液の使用が見込まれる一方、若年層の献血者確保が課題となる中、10代の若者に向けて、献血の必要性を北海道内のラジオ放送4局の協力を得て、視聴することにより、潜在意識の中に献血と言う言葉を浸透させて、積極的に献血に参加することを推進する。

【 内 容 】①血液の不足傾向にある、10月～11月の一ヶ月間
②道内広域放送のＡＭ、ＦＭ局４社
③周知ポスターの作成
④献血処遇品の作成

【実施日】　北海道内全域10月～11月の一ヶ月間

【対象者】　10代の若者（高校生・大学生等）

【昨年度実績】10代の献血者　1,350名

【実施手順】　4月　北海道薬務課と血液センターの打ち合わせ
6月　北海道公聴課とのラジオ放送内容の打ち合わせ
8月　放送内容・ポスターの検討・作成

【平成28年度に取組予定の献血推進事業】
ティーンズドナー献血推進キャンペーン

【予算額】 約100万円位 （内訳:広告費80万円、印刷費20万円）

【 目 標 】 若年層の献血者確保と献血推進
10代の献血者を7.0%、1,200名を確保目標とする。

【 課 題 】 毎年11月の実施であるが関係機関との調整に時間がかかっているのでスムーズな調整をしていきたい。

ポスター

地下鉄中刷り広告

【平成28年度に取組予定の献血推進事業】
献血制度等にかかる教職員研修会

【目的】小・中・高等学校の教職員を対象に、献血の状況や日本赤十字社の保健活動などについての理解を深め、高等学校の科目「保健」における保健・医療制度の仕組組みや民間の機関の活動などの指導を充実するとともに、小・中・高等学校での献血についての正しい知識の普及啓発を促進する。

【内容】「若年層への献血推進について」、北海道保健福祉部薬務課・北海道教育局・北海道赤十字血液センターと連携して北海道内の教職員研修の基本構想に至った。

［期間］平成27年10月～12月の北海道内5ヶ所の振興局において実施する。

［対象］高等学校の保健体育科教諭等並びに献血セミナー開催など、北海道赤十字血液センターと連携した取り組みを検討している小・中・高等学校の管理職等

［説明］①献血の現状や北海道の取り組みなどについて
②高等学校の「保健体育」における献血等の取り扱いなどについて
③日本赤十字社の保健活動、献血に触れ合う機会などについて

【日程】

13：00	13：30	13：45	14：15	14：45	15：45
受付	開会式	説明①（行政室）	説明②（教育局）	説明③（血液センター）	閉会式

【平成28年度に取組予定の献血推進事業】
献血制度等にかかる教職員研修会

【実績】

振興局	実施月日	参加校				参加者				
		高校	中学校	小学校	計	校長	教頭	保体育	養護	計
胆振	10月16日	18		1	19	18			1	19
上川	12月 3日	17	3	4	24	5	2	13	4	24
渡島	12月10日	10		1	11	1	1	6	3	11
石狩	12月15日	15		1	16	1	1	13	1	16
釧路	12月18日	13		1	14	1	1	7	5	14
合計		73	3	8	84	26	5	39	14	84

【アンケート】

理解度調査	出来た	やや出来た	やや出来なかった	出来なかった
献血の現状、北海道の取組	59	19	0	0
高等学校の保健体育における取り扱い	62	16	0	0
日赤の保健活動、献血に触れ合う機会など	67	11	0	0

・献血の重要性に対する意識が大変深まりました。本校の生徒に献血啓発を進めていきたいと思う。
・献血の必要性を痛感した。JRC等に加盟し赤十字の考え方を生徒に理解させたい。
・献血を通してﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ精神の育成などができると感じた。献血ｾﾐﾅｰを実施したいと感じた。　9校（12%）

【平成28年度に取組予定の献血推進事業】
献血制度等にかかる教職員研修会

【今後の予定】

次期開催地については今年度開催地以外で設定し、学校の多い十勝、空知、後志、オホーツクが有力である。
実施期間等は北海道教育委員会に一任する。

【平成27年度に取り組んだ献血推進事業】
（青森県）学生食堂での献血フェア

【1目的】大学での献血実施の際、ヘモグロビン濃度不足で献血できない学生が多いことから、学生の健康意識向上を図ることで10～20代の献血者を増やす。

【2内容】大学の食堂の協力を得て、一定期間に「献血フェア」と題し、鉄分豊富な特別メニューを提供していただいた。

【3実施日・場所】青森県立保健大学　7月 6日～ 7月10日
青森大学　9月24日～10月11日（期間中の毎週木曜に特別メニュー提供）
青森公立大学　1月18日～ 1月22日

【4対象者】献血フェア実施校の学生

ポスターデザイン

学食内にパネル設置

学生ボランティアがPR活動

【平成27年度に取り組んだ献血推進事業】
（青森県）学生食堂での献血フェア

【5実施手順】
・大学の献血担当職員に献血フェアの企画を提案し、食堂を運営している企業の担当者を紹介していただいた。
・血液センターで基本となるメニューを提案し、食堂の栄養士の方に検討していただいた。
・血液センターで献血フェアのポスターやPOPを作成し、ポスターは大学の構内に掲示、POPは食堂の全テーブルに設置した。
・献血フェア期間内に大学へ献血バスを配車し、食堂内に献血推進用のパネルを設置した。
【6実施に際して苦労したこと】
・POPは手作りだったため、食堂内の全テーブル分（各大学100個ほど）を作成するのが大変だった。
・青森大学でレバーを使用した料理を提供したが、レバーが苦手な学生が多くて人気がなかった。
【7予算額】 **経費0円**
【8来場者】（献血者数） 青森県立保健大学64名受付　42名採血
※この他、期間中に献血ルームへいらした方11名
青森大学　47名受付　　33名採血
青森公立大学　22名受付　21名採血
【9効果（評価）】医療系の学部がある大学や女子学生の関心が高く、効果が大きかった。
報道機関にも取り上げられ、献血への関心を広く喚起することができた。
【10改善点（又は問題点又は反省点）】
・実施期間が短かったので、血色素不足の解消効果はあまり見られなかった。
→実施期間中だけではなく、日頃の食生活改善のきっかけとなることを期待し、継続的に実施したい。
【11今後の課題（又は今後の対応方針）】
・28年度は学生の関心を更に高められるよう、栄養学科の学生にメニューを考案してもらうなど学生を巻き込んだ企画を展開していきたい。

【平成27年度に取り組んだ献血推進事業】
（青森県）学生献血クリスマスキャンペーン

【1目的】
　冬場の献血者数の増加を図り、若年層への献血の理解と協力を促すことを目的とする。
【2内容】
　青森県学生献血推進連絡会による企画
　ツリーのオーナメント作成、献血に協力してくれた方に景品があたるくじ引き
　バルーンアート・着ぐるみによる献血のよびかけ
【3実施日・場所】
　12月13日（日）　サンロード青森
　12月20日（日）　イオンモールつがる柏
　12月23日（水）　イオンモール下田
【4対象者】・・・・献血会場での買い物客

【平成27年度に取り組んだ献血推進事業】
（青森県）学生献血クリスマスキャンペーン

【5実施手順】
学生献血推進連絡会第4回、5回会議にてキャンペーン時の処遇品や独自イベント等について企画。
【6実施に際して苦労したこと】
学生が集まって事前準備する時間の確保に苦労した。
【7予算額】
献血協力者への記念品：120,000円
広告費（フリーペーパーに掲載）：350,000円
【8来場者】・・・172名（献血者）
【9効果（評価）】
学生によるバルーンアートの作成や着ぐるみで呼びかけを行ったことにより、
買い物客の目を引き、献血に興味を持ってもらうことができた。
【10改善点（又は問題点又は反省点）】
学生ボランティアの人数が少ない会場もあったため、一人の担当する仕事量が多くなった。
会場によってはイベントスペースが狭く、献血者の処遇品の受け渡し等がうまくいかないことがあった。
【11今後の課題（又は今後の対応方針）】
学生ボランティアの人数を増やす。
献血者やより多くの買い物客がイベントスペースに集まりやすいよう企画調整する。

【平成28年度に取組予定の献血推進事業】
（青森県）はじめての献血キャンペーン

【1目的】 献血者の底辺拡大及びリピーターを増やす。
【2予定内容】 初回献血者の方へ、「はじめての献血協力カード」を配布。そのカードを持参し再度献血に協力ただいた方へ「オリジナルマグカップ」を進呈。
　※献血経験者の方にも、初回献血者を連れて一緒に献血協力いただいた場合はカード配布。
【3実施日・場所】平成28年1月10日～平成29年3月31日　青森県内の献血ルーム・バス
【4対象者】献血未経験の方
【5昨年度実績】平成28年1月10日から「はじめての献血協力カード」を配布したが、平成27年度中に持ってきた方はいなかった。

ポスターデザイン

オリジナルマグカップ

はじめての献血協力カード

【平成28年度に取組予定の献血推進事業】（青森県）はじめての献血キャンペーン

【6実施手順】 ①記念品の購入、協力カード印刷の発注
②ポスター、チラシの作成
→各採血現場に掲示、チラシは献血バスでの実施事業所へ配布。
③ホームページへ告知を掲載。
④マスコミへのニュースリリースを作成し、キャンペーンについての報道依頼。

【7予算額】 407,160円
（内訳）オリジナルマグカップ 324,000円（@324円×1,000個）
協力カード印刷費 83,160円（@7.7円×10,000枚）

【8目標】 期間中、新規献血者6,000名の確保。
【9実施に向けた課題】
「キャンペーンを知って来た」という方が少ないので、今後はより効果的なキャンペーンにするための広報活動を展開しなければならない。

【平成27年度に取り組んだ献血推進事業】
（岩手県）親と子の血液センター見学会

【1目的】

少子高齢社会において、輸血を必要とする高齢層が増加する一方で、献血をする若年層が減少し、輸血用血液の不足が深刻化することが危惧されている。将来にわたり輸血用血液を安定的に確保するため、献血可能年齢に達する前から、血液についての知識や献血の重要性について理解を深めてもらい、将来の献血基盤を確保する。

【2内容】

血液センター職員によるクイズを交えたスライドを使っての説明（血液・献血について、献血の流れ）の後、献血車、血液運搬車、供給課を見学。その後、DVD「みんながくれた卒業式」を視聴した。

【3実施日・場所】

平成27年7月27日（月）・28日（火）
29日（水）・30日（木）
：岩手県赤十字血液センター

平成27年7月31日（金）・8月3日（月）
：奥州供給出張所

【4対象者】

小学生（4年生～6年生）及び保護者・家族

【平成27年度に取り組んだ献血推進事業】
（岩手県）親と子の血液センター見学会

【5実施手順】

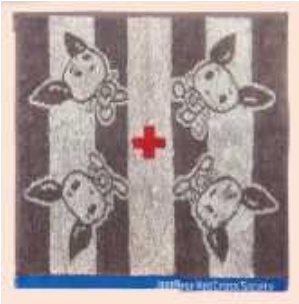
H26年度は奥州供給出張所での参加者が多かったため、H27年度は奥州供給出張所での開催を1日増やした。それに伴い、奥州地区の小学校への案内を8校から27校に増やし配布した。また、昨年度同様、ラジオの契約番組でのPRと、プレスリリースの発行、当血液センターホームページに掲載し参加者を募集した。

【6実施に際して苦労したこと】

スライド内容は小学4～6年生を対象としたもののため、一緒に連れてきた幼児には少々難しく飽きた幼児の対応に苦労した。

【7予算額】

・チラシ発送費	約33,555円	
・参加記念品	けんけつちゃんハンドタオル2015	30,000円
	CroKumaクリアファイル2013	22,000円
	すべらないCroKumaメモ帳2015	22,000円
	CroKumaフリクション蛍光ペン（3本セット）	20,100円
・合計	約127,655円	



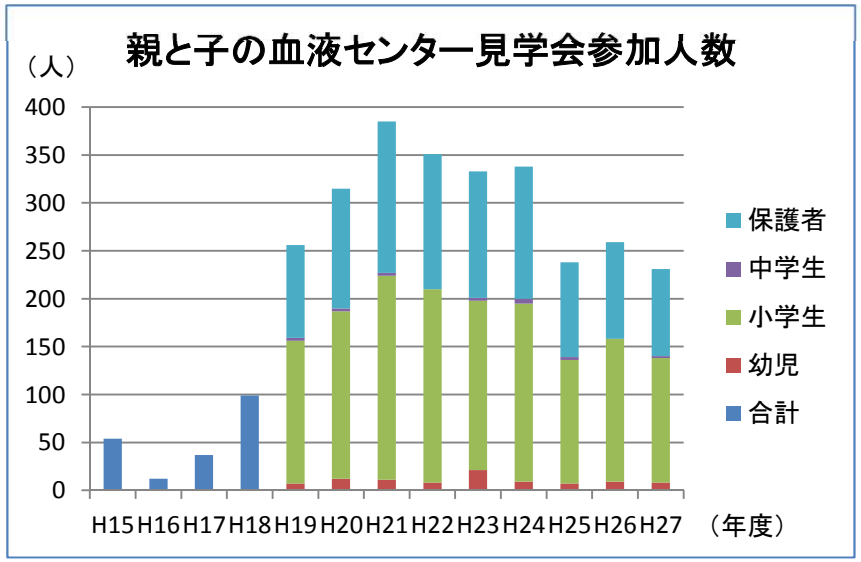
【平成27年度に取り組んだ献血推進事業】
（岩手県）親と子の血液センター見学会

【8来場者】
幼児：8名、小学1～3年生：21名、小学4～6年生：109名、中学1年生：2名、保護者：91名

【9効果（評価）】
参加した小学生は献血について多少は理解した様子で、「大人になったら献血しよう」とアンケートに記入している児童も多かった。将来の若年層献血率の向上に効果があったと思われる。また、保護者の献血に対する意識の向上も見られ、献血の動機付けとなった。（後日、献血ルームに訪れた親子がいた。）

【10改善点（又は問題点・反省点）】
奥州地区の開催を1日（2回）から2日（4回）に増やしたものの参加者は思った程増えなかった。

【11今後の課題（又は今後の対応方針）】
少子高齢化の影響もあり、小学生の参加者が減っていると思われる。また、小学生を対象とした様々なセミナーがあり、小学生は勿論の事、保護者にも選ばれる魅力的な内容にする必要がある。さらに、2年、3年と続けて参加する親子もおり、毎年参加しても新しく学べる内容が必要と思われる。



【平成28年度に取組予定の献血推進事業】
（岩手県）若年層の献血者確保対策と健康志向

【1目的】

少子化の進展による献血可能人口の減少、および、高齢化に伴う輸血医療の増加により将来の輸血医療が危惧されています。若年層対策としては、将来の献血を支える若年層の献血者確保対策が重要となっており、また、高齢化に伴った輸血医療の増加に対しては、健康で長生きが出来るよう、若いうちから疾病の予防や健康維持に関心を持つ事が重要と思われます。

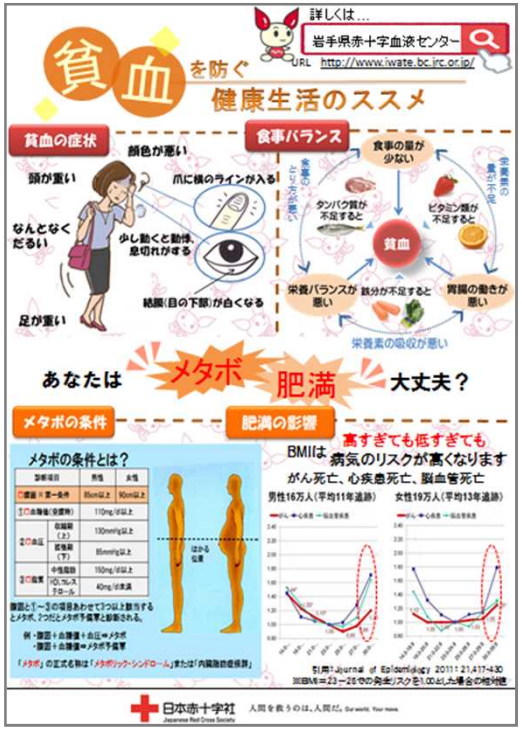
【2予定内容】（対象者・実施日・場所・実施手順）

① H27年度に当血液センターで作成した「若年層及び高校生向の皆様へ」のリーフレットをH28年度中に県内全高校生へ学校を通じて配付する。

② 大学、各種専門学校には、同リーフレットを入学オリエンテーション時等に配付する。

③ 献血希望者が少ないなどの理由により献血の実施が難しい高校には、血液センターから講師を派遣し、学校の希望する日時・場所（ホームルーム、文化祭など）で「献血セミナー」を積極的に行う。

（表面）



（裏面）

「若年層及び高校生向の皆様へ」リーフレット

【平成28年度に取組予定の献血推進事業】
（岩手県）若年層の献血者確保対策と健康志向

【2予定内容（対象者・実施日・場所・実施手順）】

④ 「貧血改善パンフレット」、「肥満解消パンフレット」はPDFファイル化し、当血液センターのホームページに掲載する。また、低ヘモグロビン値にて献血出来なかった方には、ホームページを紹介し貧血の改善に役立てていただく。

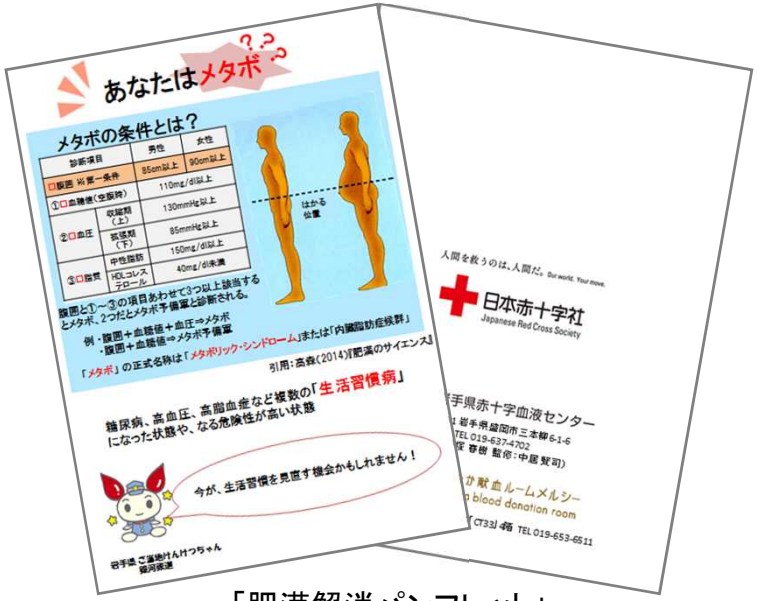
【4目標（効果）】

「献血して頂くためには健康であらなければならない」をモットーに、若年層献血者の確保対策と健康増進志向について県民に広くアピールする。

【5実施に向けた課題】

高校では多種多様なセミナーを開催しており、新たに献血セミナーを単独で加える余地が少ないため、文化祭や薬物関係などのセミナーと同時開催を模索中。

「貧血改善パンフレット」
A5版　全12ページ



「肥満解消パンフレット」
A5版　全10ページ

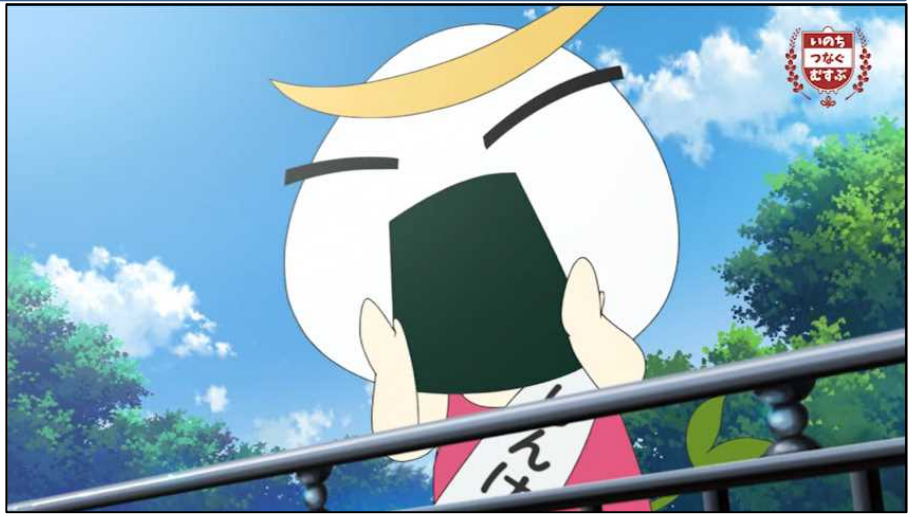
【平成27年度に取り組んだ献血推進事業】
（宮城県）「献血アニメむすび丸CM」テレビスポットCM放送業務

【1目的】・・・・平成26年度作成の『献血アニメむすび丸』アニメCM（15秒）2本を活用し、若年層を中心として、一層の献血推進を図る

【2内容】・・・・①楽天Koboスタジアムの大型ビジョンを活用した献血広報
②テレビ放送による献血広報

【3実施日・場所】・・・・①5月3日～6月28日野球開催日　16回放送　楽天Koboスタジアム宮城
②平成28年1月7日～2月29日
・東北放送　　26回
・東日本放送　22回　計48回　　総視聴率260%以上（各局130%以上）

【4対象者】・・・・①楽天Koboスタジアム宮城来場者
②宮城県内のテレビ視聴者



【5実施手順】
①楽天Koboスタジアムの大型ビジョン放送には、宮城県の放送枠があり（無償）、放送希望を申請。
②9月：委託業者（広告代理店）を入札により決定し、契約締結
　12月：放送時間・番組決定
　1～2月：放送

【6実施に際して苦労したこと】
②当課での初めてのテレビCM放送契約であったため、必要な設定（素材タイトルカット）等がわからない部分があり、契約変更を行い映像を一部修正した。

【7予算額】・・・1，134千円

【9効果（評価）】・・・耳に残るサウンドロゴを用いたCMをテレビ等の媒体で活用することにより、視覚的・聴覚的に印象に残ることから、年齢を問わず、広く献血を広報できた。

【10改善点（又は問題点又は反省点）】
②今年度は放送時間を特に設定せず幅広い時間に放送した。今後、若年層（学生等）を中心に啓発するにあたり、昼間よりは朝・夕方以降の時間帯に絞る必要がある。

【11今後の課題（又は今後の対応方針）】
②テレビ放送以外で、お金があまり掛からないアニメCMの活用方法を検討していきたい。

【平成27年度に取り組んだ献血推進事業】
（宮城県）けんけつKidsサマースクール

「けんけつKidsサマースクール」は、将来の献血を担う子供たちに、献血の大切さと血液の働きについて学びながら献血を身近に感じてもらうことを目的として、夏休み期間中である7月下旬～8月上旬に毎年開催している。

【1目的】小学生（同伴の保護者も含む）に対して、「献血受入れ～血液が医療機関に届くまで」の仕組みを理解し、献血に興味を持ってもらう。
【2内容】血液センター内部の見学及び献血セミナーの実施。
【3実施日・場所】日程：平成27年7月26日～平成27年7月27日（午前と午後の1日2回ずつ実施）
場所：宮城県赤十字血液センター
東北ブロック血液センター
【4対象者】宮城県内の小学生（主に4年生～6年生）

【平成27年度に取り組んだ献血推進事業】
（宮城県）けんけつKidsサマースクール

【5実施手順】献血された血液が医療機関へ届けられるまでの工程を、血液センター職員の説明を受けながら見学。その後、クイズ形式による小学生向けの献血セミナーを実施。

【6実施に際して苦労したこと】将来献血できる年齢になった時に、今回のことを思い出してもらえるような興味深い内容になるよう工夫した。

【7予算額】130,000円（参加案内チラシ印刷費90,000円、当日の参加者への飲料費40,000円）

【8来場者】2日間計194名の参加。（26年度は147名）

【9効果（評価）】「血液に有効期限があるのは知らなかった（子供）」、「人の命を救えるので、献血は大切だと思った（子供）」、「普段目にする機会がないものを見学できて貴重な体験だった（保護者）」、「血が怖いと関心がなかった子供も参加して献血の重要性を感じたようです（保護者）」など、アンケート結果では高い評価を得た。

【10改善点（又は問題点又は反省点）】できるだけ多くの小学生に参加してもらいたい反面、実際に血液製剤を見てもらう場所の広さ等の関係上、参加人数を制限せざるを得なかった。

【11今後の課題（又は今後の対応方針）】実施回数の増加などの対応で、より多くの人数を受入れるよう検討する。

【平成28年度に取組予定の献血推進事業】
（宮城県）「献血アニメむすび丸CM」テレビスポットCM放送業務

【1目的】・・・・『献血アニメむすび丸』アニメCM（15秒）2本を活用し、若年層を中心として、一層の献血推進を図る

【2予定内容】

- テレビ、楽天Koboスタジアム宮城での放送を予定。
- アニメCMと献血啓発リーフレット等の他の資材を連動させることで、より統一的な献血啓発活動を行っていく。

【3実施日・場所（予定）】

①楽天Koboスタジアム宮城での野球試合開催日：4月12日～9月12日　12回放送（確定）
②テレビ放送：はたちの献血キャンペーンにあわせて、1～2月に放送（予定）

【4対象者】・・・①楽天Koboスタジアム宮城来場者
②宮城県内のテレビ視聴者

【5昨年度実績】・・・・ ①楽天Koboスタジアム宮城　16回放送
②宮城県内のテレビ視聴者向け　計48回放送（予定）

【6実施手順】・・・①大型ビジョンでの放送に宮城県の放送枠があり（無償）、放送の希望を申請。
②9月：委託業者（広告代理店）を入札により決定し、契約締結。1～2月：放送

【7予算額】・・・ 1，167千円

【8目標（効果）】・・・耳に残るサウンドロゴを用いたCMをテレビ等の媒体で活用することにより、視覚的・聴覚的に印象に残ることから、年齢を問わず、広く献血を広報することができる。

【9実施に向けた課題】

②昨年度は、時間帯を絞らず放送したが、今年度は多くの若年層（学生等）の方に視聴してもらうため、有効な時間帯を検討する必要がある。

【平成28年度に取組予定の献血推進事業】
（宮城県）献血推進アンバサダーによるライブイベント

当センターの献血推進アンバサダーを務める「伊東洋平」によるミニライブを実施しながら、トークショーの中で献血の必要性を発信していく。

【1目的】地元のシンガーソングライター「伊東洋平」によるミニライブ及びトークショーを開催し、主に若年層への献血の必要性を呼びかける。

【2予定内容】ショッピングモールでの献血実施に合わせて当センターの献血推進アンバサダーである地元のシンガーソングライター「伊東洋平」によるミニライブを実施。その中でトークショーも合わせて行い、同じく献血推進アンバサダーである「莉々紀子」と献血推進関連 の内容をPRする。
また、当日は献血に関するリーフレットと献血ルーム案内のリーフレットをそれぞれ300枚ずつ配布する予定。

【3実施日・場所（予定）】7月中旬。（愛の血液助け合い運動期間）
イオンモール名取またはアリオ仙台泉

【4対象者】10代～30代

【5昨年度実績】受付74名　　採血57名

【平成28年度に取組予定の献血推進事業】
（宮城県）献血推進アンバサダーによるライブイベント

【6実施手順】 4月　配布するリーフレットの作成（改訂）
5月　イベント開催施設担当者との打合せ
※開催するスペースや予定収容人数の確認
※開催時間や回数の確認
6月　アンバサダーとのイベント内容打合せ
【7予算額】 約10万円（リーフレット作成費）
【8目標（効果）】イベント当日の献血者目標
受付80名　　採血60名
【9実施に向けた課題】現時点では実施可能な施設は限られているが、今後はより集客力の見込める場所での実施に向けて調整していく。

様式１－①

【平成27年度に取り組んだ献血推進事業】（秋田県） 秋の献血感謝祭2015

【1　目的】

県民への日頃の感謝の気持ちを伝えるとともに、若年層の献血啓発及び献血思想の普及、秋季の献血者確保を行うこととする。

【2　内容】

①献血実施（目標：100人）
②無料の屋台やステージイベント等
③親子ふれあい模擬献血体験（子どもたちが医師や看護師となって問診や採血の仕事を体験）
④AED講習（一次救命処置）
⑤秋田公立美術大学の学生ボランティアによる似顔絵の進呈

【3　実施日・場所】平成27年10月3日（土）
秋田県赤十字血液センター（秋田市）

【4　対象者】県民および献血者

秋田県赤十字血液センター外観

屋　台

様式１－②

【平成27年度に取り組んだ献血推進事業】（秋田県） 秋の献血感謝祭2015

【5　実施手順】秋田市内タウン誌への広告掲載、公共施設・学校等へのポスター配布、折込チラシによる告知を実施。

【6　実施に際して苦労したこと】例年、7月の「愛の血液助け合い運動月間」中に感謝祭を実施していたが、献血者が減少する秋季に初めて実施したことにより、入場者数の減少が懸念された。そのため、広報について重点を置いた活動を実施した。

【7　予算額】700,000円

【8　来場者】約600人

【9　効果】広報活動に重点を置いた活動により、当日は会場に多くの人が集まり、献血実績も約100人となった。初めて秋季開催としたが、夏の開催と変わらない来場者であった。

【10　反省点】大勢の来場者数に対して献血協力者の割合が比較的低い状況であった。次回は献血協力者を増加させたい。

【11今後の課題】周辺事業所など献血協力団体の増加。

親子ふれあい模擬献血体験

33秋田公立美術大学の学生ボランティアによる似顔絵

【平成27年度に取り組んだ献血推進事業】（秋田県） 秋の献血感謝祭2015

様式１－③

チラシ（表）

チラシ（裏）

様式３

【平成28年度に取組予定の献血推進事業について】
秋田県

①ふれあい献血キャンペーンの実施（継続事業）

【１　目　　的】年間を通して地域の各種イベントまたはショッピングセンター等でボランティア団体等の協力の下、地域住民に献血の普及啓発を図るとともに、献血を実施する。

【２　予定内容】①献血の普及啓発（協力団体：県内高等学校生徒等）
②献血の実施（「400ミリリットル献血デイ」として実施することもある）

【３　対 象 者】県民

【４　予 算 額】1，712，230円

【５　実施回数】48回（前年度94回）

②地域献血（参集型事業所献血）の実施（継続事業）

【１　目　　的】献血に協力する団体等と協力して、献血会場の周辺の住民に対して積極的に協力を呼びかけ、地域一帯となって献血を推進する。

【２　予定内容】①献血の普及啓発（協力団体：日赤奉仕団、ライオンズクラブ等）
②献血の実施

【３　対 象 者】県民

【４　実施回数】23回（前年度23回）

③50歳から60歳代を対象にした献血推進（継続事業）

【１　目　　的】秋田県内の年齢別人口に対する献血率は、10歳から30歳代は全国でも上位であるが、50歳から60歳代は著しく低い。そこで献血率の低い50歳から60歳代の層に対し、血液製剤の利用実態や献血可能年齢等について正確な情報を伝え、献血啓発を行い献血者の増加を図る。

【２　予定内容】①封書による献血実施日等の案内

【３　対 象 者】50歳から60歳代の県民（平成26～27年度に献血を実施した者、4，570人）

【４　予 算 額】375，000円（秋田県赤十字血液センター）

【平成27年度に取り組んだ献血推進事業】
（山形県）若年層の献血者育成事業

【1目的】・・・・　高校生（主として1年生）に対し、血液センターが実施する「献血ふれあい事業」と連携し、献血のしくみや必要性について啓発を行い、将来に向けた安定的な献血協力体制の基盤整備を図る。

【2 内容】・・・・高校生に対する献血セミナーの実施、啓発資材の配布

【3 実施手順】・・・　年度ごとに訪問目標学校数を定め、各総合支庁献血担当職員及び推進員が学校を訪問し、学校長等に対して本事業の趣旨及び献血推進の必要性等を説明し、講演の実施について協力を要請する。

講演の依頼があった場合は、各総合支庁献血担当職員及び献血推進員又は血液センター職員がリーフレット等を使用しながら講演を実施する。

【4 実績】

高校数	訪問目標数	訪問実施数	講演等実施数
63	20	31	5

【5 実施の際に苦労した点、今後の課題】

高校では年度単位でカリキュラムが決まっており、講演を実施する学校を確保することが困難であった。

前年度から学校に声掛けをするなどの対応が必要と考えられる。

【平成27年度に取り組んだ献血推進事業】
（山形県）献血サポート団体の育成①

【1目的】・・・・献血に協力的な事業所等に対し、その公益活動への顕彰を行うことにより、本県における事業所等が行う献血活動のより一層の推進を図るものとする。

【2内容】・・・・①献血サポート団体の認定

【認定基準】・献血に協力していること。
・献血会場の提供に協力していること。
・献血者の確保活動を実施していること。
・その他、献血活動の普及啓発に寄与していること。

認定団体数：255団体（平成28年3月31日現在）

②献血サポート団体の顕彰

【顕彰基準】

①組織的に献血に協力し、その実績が特に優秀であること。
・年2回以上献血を実施していること。
・前回の献血時より献血者が10%増加していること。
・献血者数が事業所構成人員の10%以上であること。
・緊急に血液が必要となった場合に積極的な協力を行っていること。
・その他特に優秀であると認められるものであること。

②献血思想の普及のための広報活動、献血組織の育成指導等を積極的に行っていること。
・ポスター、リーフレット等を作成または配布していること。
・献血活動へ積極的に関与していること。

【平成27年度に取り組んだ献血推進事業】
（山形県）献血サポート団体の育成②

【3　実施手順】・・・・・顕彰は、次の期間の実績に基づき、半年ごとに行う。

	実績評価期間	顕彰
第1期	3月～8月	9月～
第2期	9月～2月	3月～

県庁は県ホームページ等への掲載を行い、各総合支庁は市町村・総合支庁ロビー等を利用し掲示を行う。

【掲示物内容】
　特に優秀な団体：名称、写真及び献血に対するメッセージ等
　顕彰該当団体　：名称等

【平成27年度に取り組んだ献血推進事業】
（山形県）献血サポート団体の育成③

ホームページ掲載例

献血サポート団体をご紹介します

献血サポート団体とは？
県で認定した「献血に協力していただいている団体」です。

平成27年度第1期の優秀団体は以下のとおりです。

最優秀団体

○村山地域
河北ロータリークラブ

社会奉仕事業の一つとして平成6年から始めた献血例会、今年で22回を数えました。
毎年、会員も含め60人以上の方にご協力いただいており、これまで県知事及び日本赤十字表彰を頂きました。
「愛の献血」これからも継続し社会奉仕に取り組んでまいります。

○最上地域
新庄もがみライオンズクラブ

「献血で命の絆をつなごう！」
クラブ会員全員が献血推進について認識を高め、継続推進することが大事です。
献血推進実施日のPR活動を徹底し、当日献血者数の目標を100名以上としております。

パネル展示の例
各総合支庁のロビー等に掲示

平成27年度献血推進事業　【山形県赤十字血液センター】
ライオンズクラブ国際協会332－E地区献血推進研究会

【1目的】献血への理解を深めていただくとともに、各クラブの活動状況等を意見交換し、山形県の献血事業の一層の推進を図る。

【2内容】①活動優秀クラブへの血液センター所長感謝状贈呈、②各クラブ活動事例紹介、③332－E地区献血推進方針：「献血1万人運動」「献血バス1稼働当りの献血者数を増加させる取り組みについて」、④講演「ライオンズクラブと献血、これからの献血推進」

【3実施日・場所】平成27年10月8日（木）「山形市：パレスグランデール」

【4対象者】各クラブ会長及び献血推進担当者等、ゾーン・チェアパーソン、キャビネット事務局、　山形県各保健所献血推進員、

【5実施手順】ガバナーや献血委員長と日程や進行内容等調整の上、血液センターから各クラブへ案内。

【6実施に際して苦労したこと】より多くのクラブ・会員の参集と、事前に意見・提案資料をいただくこと。

【7予算額】　15万円（会場費等）

【8来場者】　93人　（48クラブのうち　38クラブが出席）

【9効果（評価）】各クラブから「献血1万人運動」達成のための計画と、「稼働率向上」に係る提案等を事前にいただき資料提出できたため、これを基に活発な意見交換が出来た。
さらに、ガバナーから献血の必要性を訴えるメッセージを賜り、各クラブの意識が向上したものと思われる。

【10改善点】 40クラブ以上の参加をいただけるようにすること

【11今後の課題（又は今後の対応方針）】
継続的な協力へ理解いただくよう、例会に積極的に参加し個別にアピールする機会を増加させる

【平成28年度に取組予定の献血推進事業】
（山形県）若年層に対する普及啓発の強化

【1目的】・・・・普及啓発活動を高校生、大学生に対して実施し、若年層の献血者確保を図る。

【2予定内容】・・・・　啓発資材の配布、献血セミナーの実施、高等学校校長会総会における献血セミナー開催依頼、高等学校養護教諭・保健主事連絡会議における講演及び献血セミナー開催依頼、県内の大学新入学生オリエンテーションにおける啓発資材の配布

【3実施日・場所（予定）】・・・・献血セミナーの実施、啓発資材の配布（通年）
高等学校養護教諭・保健主事連絡会議（7月頃）
高等学校校長会総会（2月）

【4対象者】・・・高校生、大学生

【5昨年度実績】・・・・献血セミナー開催実績　５校
高等学校校長会総会（平成28年２月19日）に出席し、献血セミナー開催依頼をした。
山形大学新入学生オリエンテーション配布用に啓発資材（ちらし）を2,000部作成し配布した。

【6　実施に向けた課題】・・・・現在、献血者が減少傾向にあり、特に若年層の献血離れが大きな問題であることを理解してもらう。
400mL献血を推進する理由を十分に理解してもらう。

【平成27年度に取り組んだ献血推進事業】
（福島県）待合室に「クレーンゲーム」を導入設置

【1目的】・・・・ 特に若い世代を中心に、献血への関心と親しみを感じてもらう。
【2内容】・・・・ 県内4ヶ所の固定施設（待合室）に「クレーンゲーム」を導入設置。
【3実施日】・・平成27年1月29日より
【4対象者】・・ 献血者（おもに学生や親子連れ）

【5実施手順】・・・ 地域内のゲーム機取り扱い業者へ交渉し、若い献血者を増やしたいという思いに同調いただき、無償でレンタル扱いとなった。※計4台。カプセル内のグッズのみ、その都度、同社より購入することとした。また、これらの広報周知についてはニュースリリースを配信し、新聞とテレビ局による取材報道により、県民への浸透が図られた。

【6実施に際して苦労したこと】・・・ クレーンゲーム機（コイン）は献血処遇品のひとつとして取り扱っているため、カプセルを簡単に獲得できるように機器の設定を甘くした。　※1個獲得できるまで実施。

【7予算額】・・・カプセル内のグッズ（180円）のみ、常時、在庫状況により購入。
【8来場者】・・・学生や休日の親子連れ献血者が増えている。
【9効果（評価）】・・・若い世代を中心に、フェイスブックやLINEなど、SNSで拡散が図られている。

【10改善点（又は問題点又は反省点）】
クレーンゲーム機よりもカプセル内のグッズ類目当ての献血者が多いことから、中身をフェイスブック等で事前告知するよう努めるとともに、ディスプレイにも工夫している。

【11今後の課題（又は今後の対応方針）】
特に学生達にちょっとした「遊び心」を持って献血に来ていただけるよう、広報面でさらなる工夫を検討して参りたい。

テレビ取材：　郡山駅献血ルームにて

↑ カプセル内グッズのディスプレイ ↓

【平成28年度に取組予定の献血推進事業】
（福島県）「AKB48　Team8　舞木香純さん」を起用した広報活動

【1目的】・・・・若年層献血者（特に男性）を増やすため、同世代から同世代へ献血への理解と協力を呼び掛ける。
【2予定内容】・・・・一広報媒体の活用のほか、当人から「献血の必要性」を学校単位やイベントを通して直接訴えていく。
【3実施日・場所（予定）】・・・・6月14日（世界献血者デー）頃より・福島県内各地
【4対象者】・・・若年層
【5昨年度実績】・・・・平成27年度、当センターで開催したイベント献血には、舞木香純さん目当てのファンが全国各地（青森県、香川県、三重県、兵庫県ほか）から集結し、そのうち約3分の2が、初めての献血（約20名）に応じた。 ※イベントに参加したことが、初回献血のきっかけとなった。

【6実施手順】・・・・・・ 3月、AKB48事務所担当者への主旨説明（福島県の献血応援について、当人も含め内諾済み）。
4月～5月、今後、効果的な献血者確保に繋げるための企画・アイデア等について、担当者と打ち合わせを重ね、6月14日の「世界献血者デー」辺りを目処に、広報活動を活発化させていく予定。
※一時的なイベントものではなく、継続性と発展性のある企画内容を考えている。

【7予算額】・・・ 当人を起用した献血広報資材の作製（肖像権）については無償協力。イベント等への参加については、随行者を含む交通費（東京⇔福島）負担が主であり、出演料は安価の見込み。※見積書により常時検討。
【8目標（効果）】・・・・特に10代、20代の献血者増加を図る。また県立高校など、直接血液センターが入り込みにくかった場所へ、当人が直接出向くことで、献血セミナーを実施しやすくしたい。
【9実施に向けた課題】・・・当人と赤十字、お互いのイメージを損なうことのないよう、慎重な活動計画を検討していかねばならない。

舞木香純さん（福島県代表）

初めて手にした「献血カード」を誇らしげに掲げる「舞木香純」ファン。 福島県赤十字血液センターにて

同世代の学生ボランティアと一体となった「献血推進」が期待できる。

献血に関するクイズコーナーで、参加者と一緒に解答を考える。

【平成28年度に取組予定の献血推進事業】
（福島県）「福島ラーメン組っ！」キャラクターを活用した広報展開

【1目的】・・・・ラーメン店という新たな切り口から、特に若い男性を中心とした献血への誘導を図る。
【2予定内容】・・・・献血推進に係るイラストデザイン（描き下ろし）により、ポスターやSNSを活用した献血推進を継続的に展開していく。
【3実施日・場所（予定）】・・・・平成28年4月より、福島県内。
【4対象者】・・・若年層、萌えキャラファンなど。
【5昨年実績】・・・これまで、同様の企画は、一時的な盛り上がりで終わってしまったものが多かった。

【6実施手順】・・・・「福島ラーメン組っ！」イラストレーター高橋わな美氏のご厚意（無償協力）により実現した。
継続的な人気と協力を促すため、イラストデザインは、3～4ヵ月ベースで新たに描き下ろしていく。
【7予算額】・・・ デザイン・ライセンス使用料、製作費まで無償。 印刷費（インク代、B3用紙）×1枚30円のみ負担。
【8目標（効果）】
年間通じて、いろいろなイラストデザインによる献血広報を考えていることから、特に学校や関係機関、商業施設などを中心にポスター掲示による広報とパブリシティを活用した報道により、経費を掛けずに温かみのある献血イメージを地域全体に浸透させていく。

【9実施に向けた課題】
イラストレーター高橋わな美氏（福島県出身）の知名度はまだ薄いが、各ラーメン店で同キャラを採用したグッズ類の売り上げが伸びていることから、今後、徐々に人気が高まっていくものと期待している。
また、「福島ラーメン組っ！」でも日々SNSを活用して献血協力を呼び掛けていることから、今後、新たな層の開拓について、さらに打ち合わせを重ねて参りたい。

次回以降、高橋わな美氏が考案中のイラストデザイン（ラフ）のうちのひとつ ⇒

4月より献血者（希望者）へプレゼント中のポスター2種。